科目名	ソーシャルワークの理論と方法(共通 I)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30	担当者	棧原弘司		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学等で教員		
対象学科・学年	福祉心理科 2年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらい -①相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解させる。②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる。③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる。④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる。⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる。のうち、この講義では、「相談援助の理論と方法」Ⅱとともに、主として②及び③について講義をすすめていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○		○		相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。	
	◎	○		○		相談援助の過程についての知識を説明できる。	
	◎	○		○		相談援助の過程における技術を使用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	「ソーシャルワークの理論と方法」Ⅰ(株ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「ソーシャルワークの理論と方法」とは何か -ソーシャルワーカーに求められる専門性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	地域を基盤としたソーシャルワークの視点 -ソーシャルワークにおける「地域基盤」の意味内容(アウトリーチを含む)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	相談援助過程(導入期) -意義・定義・目的と基本的視点、課題及び留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	相談援助過程(アセスメント) -意義・定義・目的と基本的視点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	相談援助過程(アセスメント) -情報収集の原則と内容			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	相談援助過程(アセスメント) - 情報収集ツールの理解と実際の利用			教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと		
	7	相談援助過程(アセスメント) -ニーズの定義とその捉え方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	相談援助過程(支援計画の作成) -意義・定義・目的、枠組みと展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	相談援助過程(支援計画の実施(モニタリング)) -意義・定義・目的、枠組みと展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	相談援助過程(評価) -意義・定義・目的、方法・留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	相談援助過程(終結) -意義・定義・目的、方法・留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	相談援助におけるクライアント理解の方法 -治療モデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	相談援助におけるクライアント理解の方法 -生活モデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	相談援助におけるクライアント理解の方法 -ストレスモデル			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	前期(第1回～第14回)講義内容総括			教科書の該当範囲の復習をしておくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを1回実施する。(3)事例検討・発表を2回実施する。 *成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	○				10%
宿題提出・発表等口	○	◎		○		10%	
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は科目履修認定を行わない。						

科目名	マナーⅡ						
科目名(英)	Business manners exercise Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	進ひろみ		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	一般企業、放送局に勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	実習で必要とされるマナーや就職先の即戦力として活躍できるスキルを身につけることが重要である。1年次で学んだ一般社会のビジネスマナーを基本とし、福祉従事者としてどうあるべきかを考え、実習や現場で必要なマナーの振り返りと応用を学ぶ。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			実習生としての品格について理解できる	
	○	○	○			感じの良いあいさつや立ち居振る舞いができる	
	○	○				好感・信頼感を高める言語コミュニケーションを活用し実践できる	
	○					電話応対や訪問時の正しい言葉遣いやマナーについて理解し実践できる	
	○	○				郵便の知識、一般の文書(手紙)の知識習得し、実習や就職活動に生かすことができる	
テキスト・教材 参考図書	・プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1年次の振り返り					
	2	実習で良い印象を与えるためには(グループワーク・発表)				前回の授業の振り返りしておくこと	
	3	実習準備① 実習先への電話の仕方				前回の授業の振り返りしておくこと	
	4	実習準備② 電話練習				前回の授業の振り返りしておくこと	
	5	実習準備③ 訪問のマナー				前回の授業の振り返りしておくこと	
	6	面接の立ち居振る舞い				前回の授業の振り返りしておくこと	
	7	郵便の知識とお礼状の書き方①				前回の授業の振り返りしておくこと	
	8	郵便の知識とお礼状の書き方②				前回の授業の振り返りしておくこと	
	9	来客応対～接待(お茶の入れ方・出し方・運び方)				前回の授業の振り返りしておくこと	
	10	来客応対～接待(ロールプレイング)				前回の授業の振り返りしておくこと	
	11	電話応対～ビジネス電話の特徴・受け方				前回の授業の振り返りしておくこと	
	12	電話応対～取り次ぎの仕方				前回の授業の振り返りしておくこと	
	13	電話応対～不在の場合の対処の仕方				前回の授業の振り返りしておくこと	
	14	電話応対コンテスト				前回の授業の振り返りしておくこと	
	15	冠婚葬祭のマナー まとめ				前回の授業の振り返りしておくこと	
評価方法	(1)グループワークや発表を実施する (1)定期試験(筆記)を実施する。 (3)身だしなみや忘れ物、課題提出などの授業態度チェックを行う。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	グループワーク・発表・提出物		○		◎		20%
	授業準備・態度・身だしなみ				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会保障 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	15コマ	担当者	宮井浩志		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にてMSWとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	社会福祉士が相談援助を行う際に必要な社会資源及び諸制度等は社会保障制度に付随しているものである。社会保障制度を活用は必須条件であり、幅広い分野の知識を獲得する必要がある。この科目では、全体像の把握だけでなく各分野の制度の成り立ち、変遷も学んでいく						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会保障制度の概要について説明することができる	
	○					社会保障に影響を与える日本情勢及び環境要因を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	社会保障入門第3版 (有斐閣出版社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会保障の理解			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	2	社会保険と社会扶助の理解			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	3	社会保障の成立と福祉国家			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	4	日本の社会保障の範囲			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	5	日本の社会保障の変遷(へんせん)-戦前			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	6	日本の社会保障の変遷(へんせん)-戦後			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	7	高度経済成長期の社会保障			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	8	安定成長期の社会保障改革			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	9	バブル期以降の社会保障			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	10	国民生活の変化に伴う社会保障への影響-家族の変化			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	11	国民生活の変化に伴う社会保障への影響-ライフステージの変化			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	12	社会保障給付費からみた日本の社会保障の大きさ			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	13	社会保障給付費の推移			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
	14	社会保障の財源			テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく		
15	全体のまとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	発言・質問・学習姿勢				◎		30%
履修上の注意							

科目名	障害者福祉						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	原田 剛		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	障害者支援施設にて生活支援員		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	障害について考え、障害者がどのようなサービスや制度を必要としているのかを学ぶ。障害を理解し、制度を理解することの重要性を学び現場に必要な知識を身につける。 ①障害者の生活について理解する ②法律、制度等を理解する。 ③実際の支援について学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				障害者福祉に関する法律制度等の概要を理解する。	
	○	○				福祉専門職(社会福祉士等)の役割や実際の業務等を理解する。	
				○		課題発表、グループワーク等を行い、障がいのある方の支援について理解を深める。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央法規出版: 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ミネルヴァ書房: よくわかる障害者福祉 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	障害者を取り巻く社会情勢				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	障害者の生活実態				レポート課題について調べる	
	3	障害について考える・レポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	障害にかかわる法体系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	障害にかかわる法体系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	障害にかかわる法体系				レポート課題について調べる	
	7	法律、制度等に関するレポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	障害者自立支援制度①(障害者総合支援法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	障害者自立支援制度②(障害者総合支援法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	組織機関の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	専門職の役割と実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	障害者にかかわる専門職の価値・倫理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	多職種連携・ネットワーキング				レポート課題について調べる	
	14	障害者支援の現状と課題についてレポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	障害者支援における事例検討とサービス利用について/定期試験対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
評価方法	①授業の中で小テストを4回実施。 ②レポート課題を3回(内容と発表で評価を行う) ③授業中に実施する小テストとレポート課題(提出・発表) 定期正試験で総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	小テスト		◎				30%
	課題レポート 発表				◎		10% 10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	馬場 一美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	居宅介護支援事業所に相談員として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	相談援助に関わる知識と技術について具体的に理解し、実践的な技術を習得する。実際に実習を行う事業所についての理解を深め、実習を通し社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		実習の目標としくみを理解し、実習施設に関する事前学習の成果を実習指導者へ説明できる。	
	○	○		○		実習計画書を実習指導者へ説明できる。	
	○	○	○	○		利用者の生活を支援する社会福祉士の役割と事業所の役割・機能を説明できる。	
	○	○		○		利用者との関係性、多職種連携について説明できる。	
○	○		○		実習を振り返り、ソーシャルワーカーとしての学びと今後の課題を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	テキスト「相談援助実習 ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト」、プリント等適宜						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	実習までのスケジュール確認・実習先発表			相談援助実習指導Ⅰを復習しておくこと		
	2	学生調査票作成			1年後期実習指導Ⅰ該当範囲を復習しておくこと		
	3	春休み期間中のボランティア実習振り返り			ボランティア報告書を事前に提出すること		
	4	学生調査票清書、出勤簿、評価表、誓約書等の書類作成			実習先の概要を事前に調べておくこと		
	5	実習施設について調べ学習・施設概要まとめ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	実習計画書についての講義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	実習計画書作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	実習前面接・事前オリエンテーションについての説明			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	実習前面接・事前オリエンテーション準備			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	記録の理解① 実習記録の目的と、日誌の提出方法			実習先へ持参する書類を確認しておくこと		
	11	実習前面接(学内面接)			面接後、振り返りシートを各自作成・提出すること		
	12	事前オリエンテーション(実習先訪問)			「オリエンテーションを終えて」を作成すること		
	13	記録の理解② 日々の目標設定、実習内容の記録方法について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	記録の理解③ 考察及び所感の書き方について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	A日程直前指導(実習における個人情報保護について)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	16	A日程振り返り、お礼状作成			A日程振り返りシートを作成しておくこと		
	17	A日程報告会			実習係は報告会の司会進行を担当		
	18	プロセスレコードの活用について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	特別講演:実習の概要、具体的なプログラム、実習生に期待すること			事前配布資料を確認しておくこと		
	20	特別講演:実習の概要、具体的なプログラム、実習生に期待すること			事前配布資料を確認しておくこと		
	21	アセスメントシートの作成方法			事前に配布する事例を読んでおくこと		
	22	アセスメント結果に基づいた支援目標・支援計画の策定方法について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	B日程の実習帰校日、実習終了後の流れについて			各巡回担当教員とスケジュール確認を行うこと		
24	実習帰校日			実習日誌と中間振り返りシートを記入しておくこと			
評価方法	①宿題・レポートを数回実施する。②実習前面接を実施する。③実習報告会を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出	◎	◎		◎		30%
	レポート	◎	◎				20%
	実習前面接		○	○	◎		20%
実習報告会	◎	◎		◎		30%	
履修上の注意	出席が16回に満たない場合、相談援助実習を実施することができない。 本科目がD評価の場合、社会福祉士の受験資格取得不可となる。						

科目名	精神医学と精神医療 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	東中園 聡		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科病院に医師として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	精神疾患の特徴と精神医療の実際、コメディカルスタッフとの連携等について学び、精神医療及び精神保健福祉に求められる役割について理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				代表的な精神疾患について特徴や症状について理解することができる	
	○	○				精神医療機関の治療構造及び専門病棟、ケアについて理解することができる	
	○	○				精神医療と精神保健福祉士との連携の具体的な内容について理解することができる	
	○	○				精神保健の視点から見た家族のアプローチについて方法及び対処を理解することができる	
テキスト・教材 参考図書	精神医学と精神医療(中央法規出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神疾患について(概説)				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	2	神経症性障害①				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	3	神経症性障害②				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	4	ストレス関連障害				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	5	エディプス・コンプレックス				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	6	パーソナリティ障害				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	7	生理的障害				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	8	うつ病				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	9	双極性障害				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	10	統合失調症①				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	11	統合失調症②				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	12	薬物療法				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	13	心理療法				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	14	社会療法				テキストの該当ページを読んでおくこと	
	15	フランクルの医学的精神指導				テキストの該当ページを読んでおくこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は科目履修することができない。						

科目名	現代の精神保健の課題と支援 I						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	宗岡 誠		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科勤務医 35年		
対象学科・学年	心理社会福祉学科 2年						
授業概要	21世紀に入り、生活環境の変化が生じてきており、心身共に健康を維持し、増進していくという課題がある。メンタルヘルスの重要性は、現在、誰でもがしることとなり、うつ病と自殺、ストレス関連の心身症、アルコール依存症、薬物依存症、少子高齢化や、認知症などに対する、国の施策がそれを象徴している。また、児童虐待や、いじめ、犯罪被害者の心の傷やその支援者によるストレスへの援助、セクシャル・マイノリティー(LGBT)への理解や支援など、様々な課題がある。伝統や習慣、価値観の違いなど、地域や個人で様々な変化があり、そのことによるストレスや課題も生じている。テキストには、従来の精神疾患名(ICD-10)、DSM-5の疾患名も付記されている。テキストを熟読し、精神保健的な視点と最新の情報と知識をみにつける。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					精神保健の基本的概念を学び、他者に説明が行える。	
		○				精神保健の歴史と現在の状況について理解する。	
			○			精神保健を理解する上での、ライフサイクルの課題と危機を理解する。	
				○		精神保健の各課題の現状とその基本的考えかたを理解する。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 精神保健の概要と課題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。DVD、PPTを使用		
	2	第1章 精神保健の概要と課題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト		
	3	第2章 精神の健康とその要因			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	4	第2章 精神の健康とその要因			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	5	第2章 精神の健康とその要因			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト		
	6	第3章 精神への健康への関与とその支援			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	7	第3章 精神への健康への関与とその支援			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト		
	8	第4章 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	9	第4章 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	10	第4章 精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト		
	11	第5章 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	12	第5章 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	13	第5章 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用 小テスト		
	14	第1章から第5章を振り返り総括			配布プリントを参照。質問にその場でこたえられる。		
15	第1章から第5章を振り返り総括			配布プリントを参照。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				90%
	小テスト	◎	◎				5%
グループワーク	◎	◎		◎		5%	
履修上の注意	講義中の私語は、禁忌						

科目名	精神保健福祉制度論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科医療ソーシャルワーカー (精神保健福祉士)		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	精神保健福祉士は、専門職として価値を基盤に捉え知識と技術を駆使した支援が求められる。授業では、「知識」として精神障害者に関する法制度について学ぶ。精神障害者の社会的復権のために法制度を適切に活用して、相談援助を展開できるようにする。また、精神保健福祉士の役割について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		△		精神障害者に関する法制度の体系について理解する	
	○	○		△		精神保健福祉法、医療観察法などの医療に関する制度の概要と課題を理解し、精神保健福祉士の役割について理解する	
	○					生活支援に関する制度の概要と課題、精神保健福祉士の役割について理解する	
	○					経済的支援に関する制度の概要と課題を理解し、精神保健福祉士の役割について理解する	
						障害者に関する法制度を適切に活用できる	
テキスト・教材 参考図書	1. 最新・精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉制度論」 中央法規 2. 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房						
回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明					
	2	精神障害者に関する法律の体系				教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	3	精神保健福祉法の概要				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	4	精神保健福祉法の概要				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	5	医療観察法の概要				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	6	医療観察法の概要				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	7	アウトリーチ、精神科救急				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	8	相談支援制度				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	9	居住支援制度				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	10	就労支援制度				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	11	精神障害者の生活課題				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	12	生活保護制度の概要				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	13	生活困窮者支援制度				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	14	低所得者対策				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
	15	精神障害者の生活実態から見える経済的支援の課題				授業内容の復習及び、教科書の該当箇所を読み予習しておく	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)宿題・レポート提出を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	小テスト	○	○		◎		20%
宿題・レポート	○	○		◎		20%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。精神保健福祉領域に関する様々な情報に興味を持つことが必要。精神障害者の置かれている状況や実際の法律・制度について、歴史的な背景を含め理解することができるよう、授業に積極的に参加すること。精神保健福祉援助実習で必要となる科目であることを認識しておくこと。						

科目名	交流ゼミⅡ-①						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科病院での精神科医療ソーシャルワーカー		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	福祉心理科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。						
授業形式	講義:	演習:	○	実習:	○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。	
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。	
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。	
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。	
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介				グループ内で活動内容を協議しておく。	
	2	グループ内でのレクリエーション				グループ内で活動内容を協議しておく。	
	3	グループ内でのレクリエーション				グループ内で活動内容を協議しておく。	
	4	グループ内でのレクリエーション				グループ内で活動内容を協議しておく。	
	5	グループ内でのレクリエーション				グループ内で活動内容を協議しておく。	
	6	グループ内でのレクリエーション				グループ内で活動内容を協議しておく。	
	7	グループ内でのレクリエーション				グループ内で活動内容を協議しておく。	
	8	グループ内でのレクリエーション				グループ内で活動内容を協議しておく。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				○		100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位取得ができない。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	社会学と社会システム						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松澤秀樹		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	スクールソーシャルワーカーとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	人と社会の関係や社会システムを理解し、現代社会の様相を捉える。また、種々の社会問題について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				現代の社会システムについて理解する。	
	○	○				現代の社会で起こっている課題について考察できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	最新・社会福祉士養成講座3 社会学と社会システム						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会学とは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	家族の社会学			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	生活と社会			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	社会変動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	人口と社会			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	コミュニティとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	社会システム(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	社会システム(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	社会的行為と社会的役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	社会集団と組織			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	社会関係資本と社会連帯			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	社会問題の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	日本社会と社会問題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	共生社会と権利			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	社会学について(全体まとめ)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。宿題・レポートも評価の対象とする。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				90%
	小テスト						
	宿題・レポート 発表・作品	○	○				10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	ソーシャルワーク実習						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	180時間	担当者	馬場 一美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	居宅介護支援事業所で相談員		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	実習指導者による指導のもと、相談援助に係る知識と技術について实际的に学ぶ。2年次の6月～9月の間、主に高齢者施設等で180時間以上の配属実習を行う。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		相談援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等の体得をしている。	
	○	○	○	○		援助実習を通して、利用者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し説明できる。	
	○	○	○	○		社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	
	○	○	○	○		総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	相談援助実習 ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	(1) 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成					
	2	(2) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成					
	3	(3) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成					
	4	(4) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワーメントを含む)とその評価					
	5	(5) 福祉・保健・医療に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際					
	6	(6) 社会福祉士としての職業倫理と法的義務への理解					
	7	(7) 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解					
	8	(8) 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際					
	9	(9) 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解					
	10	(10) 相談援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。					
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習指導者の評価を含めて総合的に勘案する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	事前準備や事後提出	○	○	○	◎		50%
	実習	○	○	○	◎		50%
履修上の注意	実習要項規定に準ずる						

科目名	スクールソーシャルワーク論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	笠木 順一		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	スクールソーシャルワーカーとして勤務中		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	不登校や児童虐待などの問題に対し、学校現場において福祉的観点から支援を行うのがスクールソーシャルワークである。スクールソーシャルワークでは基本的な相談援助技術に加え、教職員や各関係機関との連携した支援が重要である。この授業ではスクールソーシャルワークの基礎と学校現場の理解を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					児童生徒が抱える問題について学び、その内容を説明することができる。	
		○				児童生徒が抱える様々な問題のそれぞれの原因や背景について説明することができる。	
		○				問題種別ごとに連携すべき関係機関を説明することができる	
			○			新聞やニュース等の報道に関心を持ち、授業に関連する社会動向を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房「よくわかるスクールソーシャルワーク」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション スクールソーシャルワークとは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	スクールソーシャルワーカーの現状				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	なぜスクールソーシャルワークが必要なのか				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	スクールソーシャルワークの歴史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	学校教育の特徴①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	学校教育の特徴②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	教育(学校)が連携する機関とその機能①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	教育(学校)が連携する機関とその機能②(博多区役所?)				福岡市HP等で場所の確認をしておくこと	
	9	教育(学校)が連携する機関とその機能③(博多区役所?)				福岡市HP等で場所の確認をしておくこと	
	10	スクールソーシャルワークの展開過程①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	スクールソーシャルワークの展開過程②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	ケース会議について①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	ケース会議について②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	前期授業内容の復習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	前期授業内容の復習(特に前期テストに関わる部分)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する (2)定期試験(筆記)を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		○		60%
	小テスト						40%
	宿題・レポート	○	◎		○		
発表・作品							
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	精神保健福祉の原理Ⅱ						
科目名(英)	Principles of Mental Health and Welfare Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森田康雅		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科病院にPSWとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	本科目は、「精神保健福祉の原理Ⅰ」にて学んだ事を基盤としながら、精神保健福祉士の法的位置づけや求められる機能・役割について学ぶ。そのため、①精神障害者の生活実態、②精神保健福祉士の倫理綱領やそれに基づく職責、③職域や業務特性の3つを重点的に調べ学習やグループワーク、講義を通して学習していく。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神保健福祉士の倫理綱領における倫理原則、倫理基準の大項目が言える	
	○					精神保健福祉士と精神障害者の歴史的関係性について把握する	
	○					精神障害者の現況(生活実態や社会的立場)について把握する	
	○	○				精神保健福祉士の業務概要に関して、事例を通して把握する	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	精神保健福祉の原理が培われた足跡・過程				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	精神保健福祉士法の理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	精神保健福祉士の職業倫理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	精神障科医療による生活への影響				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	精神障害者の社会生活の実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	精神障害者の家族が置かれている状況				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	精神保健福祉士の業務特性と業務指針				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	精神保健福祉審の職場・職域				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	精神保健福祉士の業務内容とその特性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	精神保健福祉士による実践の価値・原理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	精神保健福祉士による実践の視野や視点				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	援助における関係性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	メンタルヘルスをめぐる新たな課題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	科目まとめ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	① 出席率(国家試験受験に基づく法定授業のため出席は10回以上であること) ② レポート(原則3回を課す、指示された日時までに指定の方法にて提出) ③ 受講態度 以上を下記の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	レポート課題	◎	◎				20%
	受講態度/出席状況				◎		10%
履修上の注意	5回以上欠課した場合は、①定期試験受験を認めない、また②単位認定(評価)を行わない						